

行政におけるDXの進展(?)

個人情報保護法制の一元化、自治体のシステム規格標準化

EBPM: エビデンスに基づく政策形成

データの整合性を確保する必要……データ形式の違い、定義のブレ etc.

Nが大きくなると分析の精度が上がらない

プロアクティブな行政……eg. 子供の貧困問題(2020年秋の行政事業レビュー)

箕面市(大阪府)「子ども成長見守りシステム」

子供の健康診断・学業成績などのデータと親の社会福祉に関するデータを突合
問題を抱えているかもしれない子供のリストアップ

小中学生「判定I(重点支援)」462人のうち116人は「ノーマーク」(2018後半)

タテの移動・ヨコの移動……年代・場所を通じて継続的に把握・分析する必要

子供=自律性・判断能力の限界……困難な状況にあることがわからない

大人……自分で状況を理解し、能動的に情報を獲得できるような存在?

一元化の誘惑

規律・規格の統一 → 処理システムとしての政府機構も一元化してしまえばいいのでは?

地域事務の必要性 と 地方自治の必要性

地域の個性に対応する必要(住民自治) = 組織としての自治体に担われる必要(団体自治)?

※さらに言うと for the people と by the people も予定調和しない

人格ある個人の行為を必要としない統治システム……Society 5.0の意味するもの

※逆方向の極論……無政府資本主義 anarcho-capitalism

個人の自律と契約に基づく関係だけで社会運営は可能という主張(統治の不在)

地方自治の正当化には、この両極を否定する必要がある

多元性・階層性

EBPM = 社会実験という性質

条件の違うものを複数比較することでエビデンスが得られる → 多元的な実践・一元的な分析
実験の真摯さを保証するもの……結果が自らに帰すこと(競争性)

→ 多様性・多元性がないと実験自体が成立しない

分析結果と意味理解

計量社会科学……eg. 「保守」「リベラル」とSNS上の行動の相関をマッピング

正確にはある条件によるラベルと行動の相関性……ラベルが正しいことは別に確認する必要

子供の変調(eg. 成長曲線を逸脱した体重減少)……虐待か、ダイエットか

Think Globally, Act Locally……意味理解とローカルナレッジの重要性

→ データを基礎に行なった判断が現実に対応しているかは別に確認する必要がある

→ 一元化した分析と多元的な実践の組み合わせが適切なのではないか

事務の性質と処理範囲

物理層の逆襲……データ・情報も存在し伝達されるためには物理的基礎が必要

eg. サイバー捜査とその執行……DXしても物理層への着地問題は残る

モノへの依存度合いによって規模の経済の範囲が異なる……eg. 上水道と下水道

一部事務組合・広域連合等による広域化、外部委託・PFI/PPPを通じた共同化

職員派遣・連携協約・事務の代替執行等による都道府県からの補完

→ 事務の性質によって適切な規模感が異なることを前提に、対処するレベルを設定する必要

解決の方向性

理念・基準に整合的な事務の再配分

さらなる分権化／部分的な集権化／ラベルの再構築

→ 相当に強力な基礎自治体の再編が必要なのは

→ 現実にズレが生じているものを見直す必要はあるのでは

eg. 青少年健全育成条例、迷惑行為防止条例

横展開だけでなく、縦に巻き取る必要……評価の重要性

相互運用性を確保して縦横の移動をさらに活性化

連携を支える制度構築／固定・移動の切り分け／標準化・統一化

→ 平時と非常時で使い分ける可能性

共通性の確保、事前計画、演習、調整機能の強化（国・都道府県）

eg. 災害時における警察の相互共助……自動発動を含む

→ 国民から見た場合の複雑性を縮減する必要

ワンストップサービスの促進、管轄判断の自動化

自治体の将来？

AI にできること・できないこと

結局はプログラム……類似事案が大量に存在する場合に有効（known known）

known unknown への対応……異常を検知して警告を出す、くらい

unknown unknown？

基礎自治体にしかできないこと

情報と個人のすりあわせ……データからの推定は現実に合致しているか？

対策のコーディネート（ある程度は統一化も可能だが）

バックエンドを統一化・アウトソースする方向性

※ 現実にはフロントエンドを手放す傾向が強い？

都道府県・国にできること……競争と再配分・総合調整

競争を通じて得られた知見の反映、成果の平準化 → 過度の集中がもたらす問題

esp. 教師のローテーションによる教育水準の均質化・ローカルナレッジの吸収